



イノシシに荒らされた畑

から、えさを求めて集落へ降りてきている状況だと考えられる。
鳥獣被害を軽減する対策として、「寄せ付けな

い」「侵入を防止する」「個体数を減らす」ことが重要であり、この3つの取り組みをソフト・ハード両面に渡り総合的に推進

する必要があると考えている。現在、鳥獣被害防止総合対策交付金において整備された侵入防止柵の点検や維持管理等について生産者への啓発を図るとともに、猟友会や鳥獣被害対策実施隊との連携による捕獲活動の強化に努めている。

消費税の増税

中村 水道光熱費は軽減税率の対象となっているのか伺いたい。

町長 水道光熱費は軽減税率の対象となっている。水道光熱費については軽減税率の対象外となっている。

ただし、飲料水として販売されているペットボトルなどの水は「食料品」扱いとなるので軽減税率の対象となるが、水道水については、「食料品」としての飲み水や料理で使用される量よりも、トイレや入浴、洗濯などで使われる量の方が圧倒的に多いことから「食料品」ではないと解釈されている。

子ども島口・伝統芸能大会

中村 毎回思うことだが、音声が聞き取りにくいので、その対応策について伺いたい。

教育長 「音声が聞き取りにくい」ことへの対応

策については、施設の機材面の影響等もあるが、学校との事前打合せを密にするなど、解決に向けた検討を行って行きたいと考えている。

中村 更衣室が外のテントはいかがなものかと思うが、どんなものか伺いたい。

教育長 更衣室の件については、現在は、きゅら島交流館内2階の「休憩室」と「和室」を更衣室として利用しており、外のテントは「更衣室ではなく」出演前の「控室」として利用している。

渡島 芳臣 議員



瀬戸内漁協の運営

渡島 今年度の予算委員会審査意見において議会から町への要望として「漁業権を優先するばかりではなく町民も貝類等採取出来るように漁協と協議されたい」との意見を提出したが、協議されたのか、前向きな回答

は得られたのか、協議内容を伺いたい。

町長 法的には採捕禁止となつている以上、漁協側として緩和措置ということに関しては、むずかしい点があるとの回答であった。

渡島 平成30年度、養殖業者、1本釣り、その他業種別に瀬戸内漁協へ収入として入金された漁場料、手数料は総額でどれほどか伺いたい。

町長 養殖業者の漁場料は総額8千万、受託販売の受入手数料は鮮魚類が

約407万円、貝類が約25万円である。

渡島 平成30年度、町から瀬戸内漁協への補助金、交付金は水産物流通支援事業、その他、各項目別に幾ら支払われているのか、総額をお尋ねする。

町長 平成30年度の漁協への補助金の支払いについては、浜の活力再生施設整備事業が4920万9千円、農林水産物輸送コスト支援事業が360万9千円、水産物流通支援実証事業が232万6千円、まぐろ消費促進事業が131万1千円、瀬戸内町漁船漁業燃油緊急対策事業が259万9千

円で総額5905万円で



廃船やゴミが散乱している野積場

年金支援

渡島 今回、公的年金の収入金額や所得が一定基準以下の年金受給者に年金生活者支援給付金を支給する事が決まったが、

対象者に通知書は、もなく配付されたのか、対象者は何名か、事務量がふえるが確実に支給するために、どのような対応策を取っているのか伺いたい。

町長 本町はその時期にあわせて町の広報誌及びホームページに掲載している。対象者数は、2019年4月1日現在で1610名いる。まだ申請が行われていない対象者に対しては、日本年金機

構から2回目の封書での通知を行い、あわせて町国民年金係から電話で申請をすすめている。

環境整備

渡島 海上自衛隊の東側

広場は廃船やゴミが散乱して町民から苦情があり、観光客からも指摘を受け、大変見苦しい状態であるが、整備計画は出さないものかお尋ねする。

町長 廃船処分等になると、基本は個人で行うこととなり、厳しい状況にある。今後、国、県と連携をとり対応してまいりたい。

渡島 害虫のヤスデが各集落発生しているが、薬剤配付等、まん延を防ぐための今後の対応策を伺いたい。

町長 農協において駆除

薬剤を半額で購入できるように補助を行っている。今後改めて侵入防止対策や薬剤購入補助について広報等で周知をはかっていく。

いては、たとえば親とか兄弟が役場職員であれば、職員になれないというわさがたびたび聞かれるが、そこらへんはどうか。

柳谷 昌臣 議員



町長 職員採用については、関係法令に基づき、平等な取扱いや成績主義等が要請されており、公開の競争試験を原則として公正かつ公平に行い、

町長 この件については、まったくそのようなことはない。我々としては、町民のため、瀬戸内町のためになる優秀な人材を確保したいという強い思いがある。

行政の合理化、能率化をはかり、地域の実情をふまえつつ、適正な定員管理の下に実施している。

柳谷 町内の公園等の遊具の設置状況と新たな計画はないのか伺いたい。また、雨天時の遊び場が必要だと思うが、どのように考えているのか伺いたい。

町政全般

柳谷 本町の新規職員採用について伺いたい。

柳谷 新規職員採用につ

教育長 新たな設置計画については今のところないが、現在進めている「清水地区文化スポーツ村建設検討委員会」の中で、設置の必要性があれば検討する。

また、雨天時の遊び場所については、教育委員会関係の施設としては「清水公園総合体育館」・「ぎゅら島交流館」等が活用されている。

教育行政

柳谷 本島側にもスクールの運行が必要だと思いが、どのように考えているのか伺いたい。

教育長 スクールの運行については、公共交

通機関との調整や利用状況、さらには児童・生徒数の推移等を考慮して、検討課題であると考えている。

柳谷 公共交通機関との調整だが、公共交通機関のダイヤ改正となると、すぐできることではないと思うが、早急な話し合いの予定はないか。

教委総務課長 公共交通機関のダイヤ改正となると、生徒から一般の方まで利用しているので、いろんなハードルがあると思うが、そこは教育委員会としても相談させていただき、申し入れをしていきたいと考えている。

柳谷 中学校の部活動問題等もふくめ、町内の学校再編について、どのように考えているのか伺いたい。

教育長 極小規模校が多数をしめているため、団体競技の部活動が行えないのが現状である。部活動は、生徒がスポーツに親しみ、団体行動やコミュニケーション能力を身につけるためには、必要不可欠なものだと考える。

そのことも含め、中学校の再編については、児童、生徒、保護者、地域の方々、学校関係者等のご意見・考え方をふくめ、慎重に審議し、町全体の課題として、検討し

てまいりたい。



清水公園の遊具

澤 佳男 議員



「フェリーかけろま」の欠航問題

議中であるが、結論はまだ出していない。

澤 「フェリーかけろま」の平成30年1月から11月までの欠航便数の合計、平成31年1月から11月までの欠航便数の合計はいくらか。

澤 「フェリーかけろま」について伺いたい。「欠航時における旅客等対策協議会」の結論はどうなったのか。

町長 平成30年1月から11月までの欠航便数は239便。平成31年1月から11月までの欠航便数は223便で、16便の減となっている。

町長 協議会においては、現在「出された案」について調査・検討・協

澤 「フェリーかけろま」の運航基準は、風速10m以上ということだが、わ

たしが調べた限りでは、全国のフェリーで運航基準が風速10mというのはまず見あたらなない。15m以上が普通である。

「フェリーかけろま」の運航基準を10mとしていいるのは、風に弱い、ということの証（あかし）なのではないか。
「フェリーかけろま」が欠航しているときに、民間フェリーが平常通り運航しているのを何度か見たが、このことはどういふふうに解釈すればいいのか。

商工観光課長 私が思う

には、船の大きさによって形によって、影響を受ける風の強さは変わってくると思う。それによ

て「フェリーかけろま」は10mというふうに決められていると解釈している。

悪天候が欠航の原因？

澤 悪天候が欠航の原因だということだが、自然現象を人間の手でコントロールすることは不可能である。ということは、将来にわたって頻繁に欠航が起きるといふことになる。加計呂麻島に住む人々は、この不安定な状況の中で、ずっと苦しんで生きていかなければならないということか。

課長 欠航時の対策については、いま協議会の方で出された案について、それが実際に可能なのかどうかというのをいろんな観点から事務局の方で調べている。そこで結果

で、前年と今年の欠航便数が16便減少したということであるが、それも町の努力の結果なのかもし

れないが、しかし相変わらず欠航が多い。それは変わってないと思う。
理由がどうであれ、いま現に苦しんでいるのは加計呂麻島の人たちである。どうしたら加計呂麻島の人々の苦しみをのぞくことができるのか。それを考えるのが町の仕事だとわたしは思っている。
今後をどういふふうにかえていけるのか、聞かせてほしい。

を出せるのかどうかというのをいまやっている最中である。

ているが、不定期運行とは何か。デマンド運行とは何か。その目的は何か。

町長 全路線で、「19万5千660・6km」となっている。

町長 「23・6円」となっている。

によって、22万円あまり削減できたという。年間22万円あまりの削減が、1日当たりいくらになるかといえば617円。1日に617円を節約するためにあつちもこつちも不定期運行、デマンド運行。

澤 対策を検討中ということだが、検討中のあいだも加計呂麻島の人々は、毎日不安や苦しみに耐えなければならぬという、そういう状況の中で生きている。

町長 利用客がいない場合や事前予約がない場合は、終点まで運行せずに営業所へもどることになる。デマンド運行は、電話等の予約があれば運行する。目的としては、過疎地域におけるバス事業の効率化を期待している。

澤 加計呂麻バスの全路線における、平成31年度の、1年間の回送による走行キロはいくらか。

町長 全路線で、「2万6千242・4km」となっている。

フェリーの発着場から各路線に向けてバスは走るが、途中のバス停でバスに乗ろうとしてもくるのかこないのかわからない。くると思って待っていたらこない。そんな状況がずーっと続いている。

考えて、早く行動に移すべきだとわたしは思っている。

澤 加計呂麻バスの、平成31年度の燃料費の合計はいくらか。

町長 「524万4千483円」となっている。

町長 「22万2千250円」の減少となる。

1日にわずか617円を節約するために、加計呂麻島の人たちにバスを利用できないという不便を与え、くるのかこない

**不定期運行とは
デマンド運行とは**

**なぜ、不定期運行
なぜ、デマンド運行**

澤 平成30年3月から、

澤 加計呂麻バスの全路線における、平成31年度の、1年間の実車走行キロはいくらか。

澤 加計呂麻バスの、走行距離1kmあたりの、燃料費はいくらか。

効率的な運行とは

不定期運行が実施され、

1年間の不定期運行、デマンド運行の実施

1年間の不定期運行、デマンド運行の実施

1年間の不定期運行、デマンド運行の実施

1年間の不定期運行、デマンド運行の実施



フェリーかけろまに乗り込む人々

のか、わからないという不安を与えることに、何の意義があるのか。こんなことは、ただちにやめるべきである。町民にとって何の益にもならない。このような不定期運行、デマンド運行を効率的な運行だというのか、わたしはこういうやり方に意義を感じないのか。

不定期運行、デマンド運行を実施する目的は、効率的な運行だというのか、わたしはこういうやり方に意義を感じないのか。

榊 藤光 議員



人口減少問題

榊 将来、広域合併の可能性はないか。

町長 国が推進する施策ではあるが、将来においても町民の意思により選ばれるべき重大な事案であるので可能性の可否は申し上げることはでき

ない。

第五次瀬戸内町長期振興計画の確実な実行により、「瀬戸内町に住み続けたい」と多くの町民が思っていたにすぎ、その結果により町民が判断することである。

榊 人口1万人復活について

て伺いたい。

町長 平成27年当時、本町の人口は9千人程度であった。政策を実行するには明確な目標を設定することが大切であることから、1万人復活をかけたところである。

大島本島南部中核都市構想

榊 大島本島南部地域に

は、国際避難港として、また民間の水産業関係の施設も多く、海洋レジャーにおいては、オールシーズン型とその可能性は、南西諸島でも特筆される地域といわれている。この地の利を生かして、大島本島南部中核都市づくりの可能性について伺いたい。

「慰霊の海」構想

榊 次に、戦争の悲惨さを語る時、沖繩での地上戦や舞鶴港の引き上げ船のことは多くの国民が知ることではあるが、奄美近海にはアメリカ軍の攻撃で沈没した学童疎開船対馬丸で犠牲者になった、多くの学童らの御霊が眠っている海域がある。戦争の悲惨な現実を学習し、平和の尊さを学び、風化させてはならないことは、戦跡の多い本町ならではの責務かとも思う。各地に慰霊碑はあるが、宇検村、徳之島の海域をふくめた「慰霊の海」特区構想のお考えはないか、伺いたい。

町長 「慰霊の海」特区構想については、現時点では考えていないが、役場内の課局に関係し、さらには近隣町村との連携協力も必要かつ重要な大きな事案だと想定されるので、まずは構想の詳細について確認をした



戦争の悲しみを語り継ぐ慰霊碑

向野 忍 議員



行っていたが令和2年度から奄美群島成長戦略推進交付金において奄美らしい空き家改修事業として採択できないか、国・県に働きかけ連携して進めていけるよう努力していきたい。

空き家対策について

向野 地域提案型・空き家活用事業について予算措置等、今後の対応を伺いたい。

向野 空き家法に基づく「空家等対策計画」の策定の提案に対し、関係機関、団体等と協議等を行いつつ策定に向け検討していきたいとされたがどうなったか伺いたい。

町長 定住促進や集落の活性化につながる政策と

町長 策定に至っていない状況である。空き家に関する対策を総合的かつ

計画的に実施するために
も、「空き家等対策計画」
の策定が必要と考えてい
るので、行政事務の一元
化等も含め関係機関と連
携をはかりながら取り組
みたいと考えている。

向野 空き家対策推進室
設置等の提案に対し、空
き家に関する役場内の運
営及び行政事務の合理化

に向け、一元化もふくめ
事務改善審議会で議論す
るとされたがどうなった
か伺いたい。

町長 空き家対策推進室
設置等については必要で
あると考えている。副町
長を中心とした事務改善
審議会においてさらに議
論を重ね、取り組んでい

くように指示をしている
ところである。

**与路島・請島・
加計呂麻島の医療・
介護・福祉政策**

向野 「地域力強化推進
情報ネットワーク」の構
築状況について伺いた
い。

町長 「チームせとうち
我が事・丸ごと支え愛事
業」における包括的支援
体制構築の一環として取
り組んでいるもので、個
別に管理されている医
療、介護、特定健診等の
情報を一元化し、住民ご
とに健康状況を把握し、
必要な支援等につなげて
いくことを可能にする
ネットワークを構築する

ものである。現在、イン
ターネット上での稼働は
できており、本年度中に
携帯アプリでの稼働を可
能にする予定である。



(島の保健室)の活動風景

向野 離島医療・介護・
福祉体制の全国的モデル
地区として、また、それ
らに携わる人たちの実践
的研修・研究の場として、
与路、請島両島診療所の
建て替え等もふくめた構
想を検討すべきと思うが
どうか。

町長 本町の医療・介護・
福祉の取り組みをふまえ
各方面から協力、支援の
話がある。全国のモデル
地区となるよう総合計画
を立てて国・県・関係機
関と連携をはかりながら
医療・介護・福祉の充実
に努めていきたい。

ミカンコミバエ防除対策

向野 誘殺後の初動防除

でなく、発生を未然に防
ぐ定期的な防除対策等が
できないか。

町長 沖縄県で実施され
ている年数回の航空防除

が理想であるが、現状で
は鹿児島県において実施
することは厳しいと判断

町のように頻繁に誘殺さ
れる状況から見て未然に

防ぐ措置は不可欠だと感
じており、今後、近隣自
治体とも関係を緊密にし

ながら国・県に対する要
望に努めたい。



声

田中環 (67)



大分県で生
まれ育ったが、
学業を終える
とすぐに東京
に出た。銀座
の紳士服の店
に就職し、職
人としての修
行にはげんだ。

日本でも一、二を争う店で
あったから、政界、財界、芸能
界で著名な顧客も数多くいた。
四十八歳の時に、政治家との

交流の中でこれからは介護の時
代だと知って、介護事業に転身
する決心をし、姉と二人で介護
事業を始めた。

五十人を超すヘルパーを抱え
て、夜も昼もない超多忙の生活
が続いたが、六十歳の時に見切
りをつけて、妻のふるさと小名
瀬に移り住んで七年、いまは区
長として10戸ほどの集落のため
に奮闘している。

どんな小さな集落でも見落と
すことなく、大切にしている。議
会運営を実現してもらいたい。

編集後記

いま世界は、新型コロナウイルスの感染の脅威に戦々
恐々と過ごしている。

鹿児島にも、新型肺炎の感染者が観光で訪れていた
というから、けして遠い世界の話ではない。

世界が狭くなり、地球が小さくなったことで人々の
国際交流が容易になり、盛んになったが、いいことば
かりではない。

平和で安定しているように見えるわれわれの日常生
活ではあるが、それがいつ崩れ去るのか誰にも予測す
ることのできない、不安定な土台の上になわれわれの生
が成り立っているのだということ、今回ほど思い知ら
されることはなかったように思う。



フェリーの接岸の様子を調査する委員 (長島町にて)

議会報編集委員会

- | | | |
|------|----|----|
| 委員長 | 澤 | 佳男 |
| 副委員長 | 元井 | 直志 |
| 委員 | 岡田 | 弘通 |
| 委員 | 向野 | 忍 |
| 委員 | 池田 | 啓一 |
| 委員 | 柳谷 | 昌臣 |
| 委員 | 鼻 | 克己 |